

彙 報

彙 報 第 一

前会長 西 田 龍 雄

昭和55年度第4回常任委員会

日 時：11月24日（月）午後1時30分～5時

場 所：学習院大学北2号館621号室

出席者：西田龍雄，石綿敏雄，大東百合子，奥津敬一郎，徳川宗賢，平山輝男，
松本克己

欠席者：塩谷饒，吉川守（以上委任状あり）

議 事：（1）第13回国際言語学会会議について

上記国際会議を日本言語学会主催とする第2回委員会における決議に基づき，同会議の組織委員会の構成について討議を行った。つづいて午後2時45分より同会議準備小委員会代表と，この件につき協議した。協議の結果，従来の準備小委員会を解散し，新しく組織委員会をつくり，会長には服部四郎氏，事務総長には井上和子氏が就任する，組織委員会は各小委員会に分かれる，などの諸点が確認された。次に4時20分より再び，言語学会常任委員会を開き，言語学会から組織委員会に人材を供給する具体的方法について協議した*。

*この協議の結果に基づき，事務局は，12月5日付で言語学会委員に対して，組織委員として会議の準備，運営に協力する委員の申出を受ける葉書を送り，その結果を逐次，準備小委員会側に連絡した。

昭和56・57年度会長，会計監査委員，委員選挙の結果について

学会会則に基づく，昭和56・57年度会長，会計監査委員，委員の選挙は12月

29日に投票用紙発送，翌年1月24日締切り，1月31日開票の順で進められた。この結果会長選挙最高点者柴田武氏の会長就任辞退により，次点者川本茂雄氏が繰上げ当選となった（3月31日付，会長名による「昭和56・57年度本会各種役員選挙結果の報告」を参照）。

投票総数	195	うち有効投票数	189
会長選挙		投票数	184
		うち有効投票数	158
		白票	6
		無効	20
最高点	柴田 武		32 票
次 点	川本茂雄		19 票
次々点	北村 甫		18 票

その他の諸委員の選挙結果は下記の通りである。

会計監査委員選挙	投票数	135×2
	うち有効投票数	271
	白票および無効	99
当 選	井上和子	20 票
当 選	徳川宗賢	15 票
次 点	国広哲弥	15 票
次々点	北村 甫	14 票

* 第二位者徳川宗賢氏，第三位者国広哲弥氏の得票数が同じであったため，選挙細則 C. 1 に基づき，抽選によって順位を決定した。

委員選挙 当選者（五十音順）

（1）北海道（1名）

池上二良

(2) 東 北 (2名)

鬼 春人, 加藤正信

(3) 関 東 (32名)

池上嘉彦, 石綿敏雄, 井出祥子, 井上史雄, 大江孝男, 大東百合子, 奥津敬一郎, 亀井 孝, 北村 甫, 金田一春彦, 日下部文夫, 国広哲弥, 柴田武, 下宮忠雄, 鈴木孝夫, 田中克彦, 田村すゝ子, 寺村秀夫, 長嶋善郎, 野元菊雄, 長谷川欣佑, 原 誠, 平山輝男, 松田徳一郎, 松浪 有, 三根谷 徹, 三宅 鴻, 宮島達夫, 矢島文夫, 安本美典, 藪 司郎, 湯川恭敏

(4) 中 部 (8名)

上野善道, 小泉 保, 佐藤 茂, 清水克正, 野村正良, 藤本幸夫, 松本克己, 吉町義雄

(5) 近 畿 (20名)

池上碩造, 井本英一, 岩本 忠, 長田夏樹, 岸本通夫, 北嶋静江, 近藤達夫, 阪倉篤義, 崎山 理, 庄垣内正弘, 杉藤美代子, 塚本 勲, 林 栄一, 蛭沼寿雄, 堀井令以知, 前田富祺, 村山七郎, 山口 滋, 山末一夫, 吉田金彦

(6) 中国, 四国 (4名)

関本 至, 竹内和夫, 橋内 武, 吉川 守

(7) 九州, 沖縄 (3名)

大江三郎, 西 義郎, 早田輝洋

* 関東地区委員は, 川本茂雄氏が会長に, 井上和子氏が会計監査委員に当選したため, 次点者, 次々点者が繰上げ当選となった。

近畿地区委員は, 徳川宗賢氏が会計監査委員に当選したため, 次点者が繰上げ当選となった。

昭和 56・57 年度常任委員と編集委員長選挙の結果について

選挙規則に基づき, 56年3月末で任期満了の委員に替わる新常任委員の選挙を, 郵便投票 (56年3月20日締切) によって行った。3月24日に開票, 以下の各氏が当選した。

常任委員選挙	投票者数	40
	うち有効投票数	39

当 選 者

A 大地区（北海道，東北地区）

宮岡伯人

B 大地区（関東地区）

池上嘉彦，柴田 武

C 大地区（中部，近畿地区）

蛭沼寿雄

* A 大地区は，第一位者池上二良氏が辞退したため，次点の宮岡伯人氏が繰上げ当選となった。

同時に行った新編集委員長の開票結果はつぎの通りである。

編集委員長選挙	投票総数	40
	うち有効投票数	39

当選 堀井令以知

昭和55年度会計報告

昭和 55 年度決算は下記の通り確定し，4 月 29 日に会計監査を受け，監査委員の承認を得た。

昭和55年度日本語学会決算表

自 昭和55年4月 至 昭和56年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	3,496,739	1 刊 行 費	2,475,462
C 雑 誌 売 上	201,450	2 編 集 費	100,000
D 文 部 省 補 助 金	670,000	3 発 送 費	578,128
E 預 金 利 息	52,842	4 大 会 関 係 費	538,900
F 雑 収 入	3,820	5 委 員 会 費	34,280
		6 常 任 委 員 会 費	353,300
		7 九 学 会 連 合 会 費	50,000
		8 C I P L 負 担 金	43,550
		9 選 挙 関 係 費	781,730
		10 通 信 費	134,050
		11 事 務 費	50,270
		12 事 務 所 賃 借 料	60,000
		13 事 務 局 職 員 謝 金	350,000
		16 雑 費	11,590
収入合計	4,424,851	支出合計	5,561,260
A 前期繰越	2,079,769	15 選挙関係等 準備積立金	200,000
		17 次期繰越	743,360
計	6,504,620	計	6,504,620

○ 支 出 内 訳

1. 刊 行 費	第 78 号	1,075,355
	第 79 号	1,400,107
2. 発 送 費	(55年4月～12月) 第78号他	308,649
	(56年1月～4月) 第79号他	269,479
3. 大会関係費	第80回大会	291,800
	第81回大会	247,100
5. 委員会費	第 1 回	6,400
	第 2 回	4,320
	会計監査委員旅費等	23,560
6. 常任委員会費	第 1 回	108,460
	第 2 回	87,880
	第 3 回	69,080
	第 4 回	87,880
9. 選挙関係費	名簿印刷費	385,000
	その他印刷費	43,430
	郵送料等	218,300
	選挙管理委員会経費	44,100
	結果報告印刷費	60,500
	名簿作成作業謝金	30,400

○ 55年度の次期繰越金 943,360 円 (15+17) は、前年度に比べて 1,136,409 円減少しているが、これは、事務局が当初の計画通り本年度 (55年度) に行われる会長、会計監査委員、委員等の選挙のため、初年度 (54年度) 会計でその準備金を積み立て55年度に繰越したもので、実質上の繰越金減少額は、選挙関係費 (9) を差引いた 354,679 円であることをお断りしておきます。

受贈図書リスト（昭和55年11月1日～昭和56年3月31日）

- アイスランド研究会会則・会員名簿・会員業績
 （大阪外国語大学菅原研究室；1980，10）
- 季刊アラビア語 Vol. 1, No. 1 （豊文社；1980，11）
- 大阪教育大学紀要 I. 人文科学 Vol. 28, Nos. 1；2・3
 （大阪教育大学；1979，12；1980，3）
- カナノヒカリ Nos. 699-703 （カナモジカイ；1980，11-1981，3）
- 関西外国語大学研究論集 Vol. 31-32 （関西外国語大学；1979，12-1981，1）
- 計量国語学 Vol. 12, Nos. 7-8 （計量国語学；1980，12；1981，3）
- 言語文化研究 Vol. 7 （大阪大学言語文化部；1981，3）
- 考古学雑誌 Vol. 66, No. 3 （日本考古学会；1980，12）
- 語学研究 Nos. 23-25 （拓殖大学語学研究所；1980，7-1981，1）
- 国語学 第123集 （国語学会 1980，12）
- 国立国語研究所年報 31 （国立国語研究所 1980，10）
- 国立民族学博物館研究報告 Vol. 5, Nos. 1-3
 （国立民族学博物館，1980，3；6；9）
- 史苑 Vol. 40, No. 2 （立教大学史学会，1980，11）

- 宗教学研究 Vol. 54, Nos. 2 ; 3 (日本宗教学会 1980, 9 ; 1981, 2)
- 人類学雑誌 Vol. 88, No. 4 ; Vol. 89, No. 1
(日本人類学会 1980, 10 ; 1981, 1)
- 聖書翻訳研究 No. 18 (日本聖書協会 1980, 10)
- 専修語学ラボラトリー論集 No. 9 (専修大学 LL研究室 1980, 12)
- 中南米及びカナダ移住者子弟の日本語教育調査報告書
(国際協力事業団移住海外事業部 1980, 2)
- 朝鮮学報 第96輯 (朝鮮学会 1980, 7)
- 東方学 第61輯 (東方学会 1981, 1)
- 東方学会報 No. 39 (東方学会 1981, 1)
- 東洋学文献類目 1978年度
(京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター 1980, 12)
- 東洋学報 Vol. 62, Nos. 1・2 (東洋文庫 1980, 12)
- 東洋文庫年報 昭和54年度 (東洋文庫, 1980, 10)
- 都大論究 No. 17 (東京都立大学国語国文学会 1980, 4)
- 名古屋学院大学外国語教育紀要 No. 3
(名古屋学院大学外国語教育研究センター 1981, 1)
- 日本学術会議月報 Vol. 21, Nos. 10-12 ; Vol. 22, No. 1
(日本学術会議広報委員会 1980, 10-12 ; 1981, 1)
- 日本民俗学 No. 131 (日本民俗学会, 1980, 10)
- 広島大学文学部紀要 Vol. 40 ; 特輯号 1 ; 2 (広島大学文学部 1980, 12)
- 文学研究 第77輯 (九州大学文学部, 1980, 3)
- 方言研究年報 続5 (広島方言研究所 1980, 10)
- 法政大学文学部紀要 No. 26 (法政大学文学部 1981, 3)
- 放送文化 '80年11月号 ~ '81年3月号
(日本放送出版協会 1980, 11 ~ 1981, 3)
- 民族学研究 Vol. 45, Nos. 2 ; 3 (日本民族学会 1980, 9 ; 12)
- 民族語文 第四期 (中国社会科学出版社 1980, 11)
- 月刊 みんぱく '80年10月号 ~ '81年3月号
(国立民族学博物館 1980, 10 ~ 1981, 3)

- 山口女子大学研究報告 No. 5 (人文・社会科学) Nos. 4・5 (自然科学)
 (山口女子大学 1980, 3)
- 山口大学教養部紀要 Vol. 14 (人文科学篇) (自然科学篇)
 (山口大学教養部 1980, 10)
- 山口大学文学会誌 Vol. 31 (山口大学文学会 1980, 11)
- 山梨英和短期大学英文学論集 No. 3 (山梨英和短期大学英文学会 1980, 7)
- 論集 (神戸大学教養部紀要) No. 26 (神戸大学教養部 1980, 9)
- Acta Asiatica* (Bulletin of the Institute of Eastern Culture) No. 39 ; 40
 (東方学会 1980 : 1981)
- Annual Newsletter of the Scandinavian Institute of Asian Studies* No.
 11 : 12 (The Scandinavian Institute of Asian Studies 1977 : 1978)
- Annual Reports* Vol. 5 (I. C. U. 1980)
- Archiv Orientální (Ar Or)* Vol. 48, No. 2 (Academia Praha, 1980)
- Egerod, S. *Atayal-English Dictionary* Vol. 1, A-M, Vol. 2, N-Z and
 Index ; Scandinavian Institute of Asian Studies Monograph Series No. 35
 (SIAS 1980)
- Bulletin of the School of Oriental and African Studies* Vol. XLIII,
 Part 3 (University of London 1980)
- Commentationes Humanarum Litterarum* 64 ; 65
 (Societas Scientiarum Fennica 1979)
- Descriptive and Applied Linguistics* (Bulletin of the I. C. U. Summer
 Institute in Linguistics) Vol. XIII (I. C. U 1980, 4)
- Eoneohag* ; Journal of the Linguistic Society of Korea No 4
 (The Linguistic Society of Korea 1980)
- English World-Wide* Vol. 1, No. 1 (Julius Groos Verlag 1980)
- Linguistique et Littérature* Nos. 1-3 ; No. 1
 (Bulgarian Academy of Science, Scientific Information Centre 1979 ; 1980)
- Litteratura* 1 (名古屋工業大学外国語教室 1980)
- Naše řeč* : Ústav pro Jazyk Český ročník 63, číslo 4 ; 5 1980

- (Academia nakladatelství Československé akademie ved 1980)
Literature Music Fine Arts Vol. XIII, No. 2
 (Institute for Scientific Co-operation 1980)
 Bradley, D.: *Proto-Loloish*, Scandinavian Institute of Asian Studies
 Monograph Series No. 39 (SIAS 1979)
 Brown, G., Currie, K. L. and Kenworthy, J.: *Questions of Intonation*
 (Croom Helm London 1980)
 Plann, S.: *Relative Clause in Spanish Without Overt Antecedents and
 Related Constructions*, Linguistics Vol. 93
 (University of California Publications 1980)
 Русская литература, Nos. 3 ; 4 (Ленинград 1980)
 Русский язык в школе, Nos. 5 ; 6 (Просвещение Москва 1980)
Slovo a Slovensnost, ročník XLI, číslo 3 ; 4
 (Československá Akademie ved 1980)
Die Sprache Vol. 24, Nos. 1-2 : Vol. 25, Nos. 1-2
 (Verlag der wiener Sprachgesellschaft Kommissionsverlage 1978 : 1979)
Sophia Linguistica VI (上智大学 1980)
Studia Phonologica XIV (京都大学音声科学総合研究部会 1980)
 Вестник Ленинградского университета (История-Язык-Литература),
 No. 20 (Ленинград 1980)
 Українська Мова і література в школі, Nos. 8 ; 9 ; 10 ; 11 ; 12
 (Київ 1980)
Zeitschrift für Germanistik Nos. 2 ; 3
 (Verlag Enzyklopädie Leipzig 1980)

◇ 訂正

本誌第79号彙報の一部を次のように訂正します。

訂正箇所：146 ページ 14 行目

誤：「場合には，プログラム委員会のメンバーが中心になって，」

正：「場合には，例えば，プログラム委員会のメンバーが中心になって，」

彙 報 第 二

会 長 川 本 茂 雄

昭和56年度第1回常任委員会

日 時：5月2日（土）午後2時～6時

場 所：早稲田大学言語学教育研究所会議室

出席者：川本茂雄（会長）、池上嘉彦、石綿敏雄、平山輝男、松本克己、宮岡伯人

オブザーバー：田村すゝ子

欠席者：柴田 武、蛭沼寿雄、吉川 守（いずれも委任状あり）

議事ならびに報告：

- (1) 第82回大会のプログラムを決定し、案内状作成の準備をした。
- (2) 昭和55年度決算について、前会長からの報告書を検討、了承した。
- (3) 昭和56年度予算案を検討し、出来る限り切りつめた予算案（A案）と、健全財政を目指し、やや余裕を見込んだ予算案（B案）を作成して、両案を委員会へ提出することに決定した。
- (4) 予算案に見合う会費値上げ案を委員会に提出することに決定した。
- (5) 講演料値上げについて審議した結果、今度の委員会には値上案は出さないことになった。
- (6) 第83回大会（56年秋）を10月に北海道大学（札幌）で開催することを企画した。
- (7) 第84回大会（57年春）は上智大学（東京）を第一候補として交渉を始めることになった。
- (8) 九学会連合大会（5月16日）のプログラムが5月1日に100枚届いたので、委員70名と、特に関係の深い30名の会員とに、5月2日に発送したことを報告した。
- (9) 九学会連合代表理事の江実氏が病気のため、氏の任期満了（昭和53年6月3日の委員会で当選、任期については正式記録がないが、昭和56年5月31日と理解される）まで、柴田武氏に代行を委嘱したことを報

告した。

- (10) 九学会連合代表理事および選挙管理委員を委員会で選挙することを了承した。
- (11) 事務局職員として田村すゝ子、三川基好、藤吉憲生の3名の嘱任を委員会に報告し、承認を求めることを了承した。
- (12) 編集委員長より編集委員3名の嘱任を委員会で報告することを了承した。

昭和56年度第1回委員会

日 時：5月30日（土）午前11時～午後2時

場 所：茨城大学教養部2号館3階会議室

出席者：川本茂雄（会長）、石郷敏雄、井出祥子、井上史雄、岩本 忠、岸本通夫、日下部文夫、小泉 保、近藤達夫、下宮忠雄、杉藤美代子、鈴木孝夫、竹内和夫、田村すゝ子、長嶋善郎、西 義郎、原 誠、平山輝男、藤本幸夫、堀井令以知、前田富祺、松本克己、矢島文夫、藪 司郎、湯川恭敏、吉川 守、吉田金彦（以上27名）

オブザーバー：西田龍雄（副会長）、井上和子（ICU）、徳川宗賢（以上会計監査委員）

欠席者（委任状あり）：池上二良、池上禎造、池上嘉彦、井本英一、上野善道、大江三郎、大東百合子、奥津敬一郎、長田夏樹、鬼 春人、加藤正信、北嶋静江、北村 甫、金田一春彦、国広哲弥、阪倉篤義、崎山 理、佐藤 茂、柴田 武、清水克正、関本 至、田中克彦、塚本 勲、野村正良、野元菊雄、橋内 武、長谷川欣佑、林 栄一、早田輝洋、蛭沼寿雄、松田徳一郎、三宅 鴻、宮島達夫、村山七郎、山口 巖、山末一夫、吉町義雄（以上37名）

欠席者（委任状なし）：大江孝男、亀井 孝、庄垣内正弘、寺村秀夫、松浪 有、三根谷徹、安本美典（以上7名）

報告および議事：

- (1) 第1回常任委員会の報告。
- (2) 昭和55年度決算報告が西田龍雄前会長から示され、これを承認した。

- (3) 編集委員として崎山 理，下宮忠雄，田村すゞ子の3名を指名した旨，堀井令以知編集委員長から報告があった，
- (4) 事務局職員として田村すゞ子（主任），三川基好 および藤吉憲生（助手）の3名を委嘱することが承認された。
- (5) 56年度秋季（第83回）大会を10月17日（土），18日（日）の両日，北海道大学（池上二良運営委員長）で開くことを決定した。
- (6) 57年度春季（第84回）大会を上智大学で開催するように準備中であることが了承された。
- (7) 昭和56年度予算案としてA案とB案を提出した。A案は出来る限り切りつめた予算案であって，しばしば役員等の個人に負担をかけることになるが，その上でも現行会費では150万円近くの不足分を生じる。B案は健全財政を目指し，やや余裕を見た予算案であって，節約を図るが，みみっちくしない。A B両案をもとに審議した結果，A案を採ることに決定した（別表）。
- (8) 会費値上げ案について審議した。値上げの理由を一，二挙げれば昨今物価上昇著しく，取りわけ郵便料の大幅値上げと刊行費の急騰により，支出額が増大しており，本年度はさらに大きく増大する見込である。加えて，昨年度の赤字110万円余を埋めるのにその前の年度からの繰越金の半分以上が消費され，本年度への繰越金が90万円余にとどまっている。これらの事情により，従来どおり3,500円の会費では年度末には巨額の未払金を出すことになり，これを来年度の会費値上で埋めるとすれば，来年度は極端に大幅な値上げをひきおこすことになる。よって本年度分から値上げすることが必要止むを得ざることである。

審議の結果，次のとおり決定した：

- 1) 本年度（昭和56年度）分から値上げする。
- 2) あまり大幅な値上げを避けるため本年度分はとりあえず1,500円だけ上げて，5,000円とする。
- 3) 本年度分会費として既に3,500円を納入した会員には，1,500円を追加払込みをお願いする。ただし，選挙に関しては，改訂前の3,500

別 表

昭和 56 年度日本言語学会予算表

自 昭和 56 年 4 月 至 昭和 57 年 3 月

(単位円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
A 前 期 繰 越	943,360	1 刊 行 費	3,000,000
B 会 費	4,698,000	2 編 集 費	120,000
C 雑 誌 売 上	200,000	3 発 送 費	652,000
D 文 部 省 補 助 金	670,000	4 大 会 関 係 費	780,000
E 預 金 利 息	20,000	5 委 員 会 費	30,000
F 雑 収 入	50,000	6 常 任 委 員 会 費	220,000
		7 九 学 会 連 合 会 費	50,000
		8 C I P L 負 担 金	50,000
		9 選 挙 関 係 費	19,000
		10 通 信 費	230,000
		11 事 務 費	130,000
		12 事 務 所 賃 借 料	60,000
		13 事 務 局 職 員 謝 金	700,000
		14 予 備 費	300,000
		15 選 挙 関 係 等 積 立 金	240,000
		16 雑 費	360
計	6,581,360	計	6,581,360

円を本年度分として納めた会員には選挙権・被選挙権ありと認める。

4) 来年度の会費については、当分決めないで置く。

(9) 56・57年度の選挙管理委員の選挙を行った。

当選者：石綿敏雄，井上和子（ICU），国廣哲彌，下宮忠雄，鈴木孝夫
野元菊雄，（長谷川欣佑*），湯川恭敏，大竹敏雄

次点者：田村すゝ子

次々点者：長嶋善郎

* 国廣哲彌氏と長谷川欣佑氏は同一機関（東京大学）に属し，得票数

同数であったため、選挙細則C 1によって抽選の結果国廣氏が当選となった（国廣哲彌氏辞退の場合は長谷川欣佑氏に委嘱する）。また、大竹敏雄氏辞退のため田村すゝ子氏が繰上げ当選となり、長嶋善郎氏が次点者となった。

(10) 九学会連合代表理事江実氏任期満了のため、後任を選挙した。

当選者：柴田 武

次点者：日下部文夫，徳川宗賢，平山輝男

（任期：昭和56年6月1日より3年間）

第82回大会

期 日 昭和56年5月30日（土）・31日（日）

会 場 茨城大学教養部2号館221号室（2階）

第1日（5月30日）

開会の辞

公開講演（午後2時より）

野林正路「意味論・言語研究における人間疎外と精神の帰郷」

会長就任講演

川本茂雄「言語学と記号学」

会員懇親会（午後5時30分より）

第2日（5月31日）

研究発表（午前10時～12時）

(1) 「ユーラシア比較言語学の試みⅡ

—かはぶえ（口笛）をめぐる語源解釈—

新谷光二

(2) 「日本語の助動詞規則について」

藤吉憲生

(3) 「相異なる意味分析結果を検証する視点について

—ヒラクをとりあげて—

村田知子

(4) 「メタファーについて」

平賀正子

定例会員総会（午後1時～1時30分）

研究発表（午後1時30分～4時45分）

- | | |
|----------------------------------|-----------------|
| (6) 「語順の原理—日本語とスペイン語を例として—」 | 野 田 尚 史 |
| (8) 「印欧語の統語構造の変遷に向けて」 | 吉 田 和 彦 |
| (7) 「ナイル諸語の比較研究の可能性について」 | 稗 田 乃 |
| (8) 「アラビア語の“ḥattā”とスワヒリ語の“hata”」 | 江 村 裕 文 |
| (9) 「国立国語研究所の大都市の調査から」 | 野 元 菊 雄 |
| (10) 「アイヌ語静内方言の人称接辞について」 | Kirsten Refsing |
| 閉 会 の 辞 | 石 綿 敏 雄 |

受贈図書リスト（昭和56年4月1日～昭和56年5月31日）

- | | |
|--|----------------------|
| 宇部短期大学学術報告 第17号 | (香川学園宇部短期大学, 1981) |
| カナノヒカリ ダイ 704, 705 ゴウ | (カナモジカイ, 1981) |
| 言語能力と文学能力 ヴィトール・マヌエル・デ・アギアル・エ・シルヴァ著,
谷口勇訳 | (溪水社, 1981) |
| 語学研究 第26号 | (拓殖大学語学研究所, 1980) |
| 国語学 第124集 | (国語学会, 1981) |
| 国立民族学博物館研究報告 第5巻第4号 | (国立民族学博物館, 1980) |
| 宗教研究 第54巻第4輯 | (日本宗教学会, 1981) |
| 常用漢字表 5冊 | (文化庁, 1981) |
| 人類科学 33 (奄美その5) 5冊 | (九学会連合, 1980) |
| 人類学雑誌 第89巻第2号 | (日本人類学会, 1981) |
| 朝鮮学報 第97, 98輯 | (朝鮮学会, 1980-81) |
| 東京大学研究論叢 第5巻 | (東京大学学術研究所, 1981) |
| 日本学術会議月報 第22巻第2, 3号 | (日本学術会議広報委員会, 1981) |
| 日本常民文化紀要 第7輯 2冊 | (成城大学大学院文学研究科, 1981) |
| 日本民俗学 第132, 133号 | (日本民俗学会, 1981) |

- ノートルダム清心女子大学紀要 (国語, 国文学編) 第5巻第1号
(ノートルダム清心女子大学, 1981)
- 放送文化 1981年4月, 5月号 (日本放送出版協会, 1981)
- 民族学研究 第45巻第4号 (日本民族学会, 1981)
- 民族語文 1981年第1期 (中国社会科学出版社, 1981)
- みんぱく 1981年4~5号 (国立民族学博物館, 1981)
- Annual Reports. Vol. 6 (The Division of Languages, International
Christian University, Tokyo, 1981)
- Archív Orientální (Ar Or). Vol. 48, No. 3 (Academia Praha, 1981)
- Вестник Ленинградского Университета 2, Выпуск 1
(Издательство Ленинградского Университета, 1981)
- Bulletin of the School of Oriental and African Studies, University of
London. Vol. XLIV, Part 1 (The School of Oriental and African
Studies, The University of London, 1981)
- Current Contents of Academic Journals in Japan 1979 : The Humanities
and Social Sciences (Center for Academic Publications, Japan, 1981)
- Descriptive and Applied Linguistics. Vol. XIV
(International Christian University, Tokyo, 1981)
- Literature Music Fine Arts. Vol. XIV, No. 1
(German Studies, Institute for Scientific Co-operation, 1981)
- Naše Reč : Ústav pro Jazyk Český. Ročník 64, číslo 1-2
(Academia, nakladatelství Československé akademie věd, 1981)
- Русская Литература. 1 («Наука», Ленинград, 1981)
- Русский Язык в Школе. 1-2 (‘‘Просвещение’’, Москва, 1981)
- Slovo a Slovensnost. Ročník XLII, číslo 1 (Československá věd, 1981)
- Sophia Linguistica. VII (The Graduate School of Languages and
Linguistics : Linguistic Institute for International Communication,
Sophia University, Tokyo, 1981)
- Українська Мова і Література в Школі. 1-5 (Радянська Школа, Київ, 1981)

公示 第13回国際言語学会議が昭和57年(1982)8月29日から9月4日まで東京において開催されます。日本言語学会は同会議の総会(general assembly)へ、慣行にしたがい、代表1名を派遣します。派遣代表の指名は規定により会員の立候補に基き委員会が決定します。立候補を希望する会員は、立候補の届け出を昭和57年3月31日(必着)までに学会事務局へ郵送してください。派遣代表の指名は、第84回大会(昭和57年春)の委員会において投票により決定されます。

◇ 第84回大会研究発表者募集について

第84回(昭和57年度春季)大会は、57年6月5日(土)、6日(日)の両日、上智大学で開催される予定です。つきましては下記の要領で研究発表者を募集いたしますので、ふるって御応募ください。

記

応募方法：発表要旨(400字詰1枚程度)に 1) 氏名(ふりがな)、2) 住所、
3) 電話番号、4) 所属を明記してお送りください。

しめきり：昭和57年3月26日(必着)

送り先：〒160 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

早稲田大学語学教育研究所内

日本言語学会事務局

その他：発表をご希望の方は事務処理の都合上なるべく早く(出来れば1月10日ごろまでに)事務局あてご一報ください。その際、題目は仮題でも結構です。

◇本誌は文部省昭和56年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものである。